

尼崎市立わかば西小学校 平成30年度 学校評価

学校関係者評価委員会について

委員：学校評議員3名
PTA 会長

学校：校長、教頭

- 1 本年度の重点取組 1 校区内に交通量の多い道路がたくさんあるため、登下校の安全と、仲良く楽しく学校生活を送れる事を、最優先重点取り組み課題とする。
2 児童・家庭と強い信頼関係を築き、児童が主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を伸ばしていく教育の充実に努める。
- 2 教育目標・めざす子ども像 わかるまで自ら学習に取り組む子・場を清め協力して活動する子・にこやかに挨拶と返事が出来る子・しっかり食べ進んで運動に親しむ子
- 3 本年度の研究テーマ 「自分の思いや考えを言葉にし、相手に伝わるように表現する子どもの育成をめざして」～みんながつながるコミュニケーション能力を育てる～

自己評価の基準	4：十分達成できた	3：達成できた	2：取り組んでいるが、成果は十分でない	1：取組が不十分である
関係者評価の基準	4：よく取り組んでおり、成果が大きい	3：熱心に取り組んでおり、今後が期待できる	2：取り組んでいるが、成果は十分でない	1：取組が不十分である

4 学校評価（自己評価及び学校関係者評価）

(1) 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
<ul style="list-style-type: none"> 授業改善の取り組みを推進するとともに、家庭との連携により学力向上を推進する。 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する。 食育を通して生活改善の取組を推進し、望ましい生活習慣を育成する。 体育・スポーツ活動の取組を推進し、体力・運動能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数授業によるきめ細かな指導で、特に算数の理解が向上した。 家庭と自主学習ノート・うち読ノートの取組で連携し、学習習慣の定着、改善が進んだ。 一人一授業、校内研究の推進・授業公開→指導力の向上に繋がる。 心の教育特別支援員による支援→合理的配慮の必要な児童の実態に応じた細かな支援ができています。 児童理解研修の実施→組織として生徒指導や個々の支援に役立つ。 食育の授業・給食試食会を行う。→保護者の理解・関心を高める。 チャレンジなわとびへのエントリー→個々の体力・持久力を育成する。 縄跳びチャレンジ週間を実施→全校で進んで運動に取り組む、意欲・体力の向上。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 大庄中校区で定めた学習時間の目安をどう達成していくか、自主学習ノート・うちどくノートの工夫・改善が必要 復習の充実と学習意欲のより向上を目指す→宿題等、各個人にあったレベルを検討→画一的ではない、個別の課題作成等を検討していく。 児童自らが、進んで運動しようとする意欲を育てていく必要がある→児童会等が企画して全校で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力は全国には若干下回るが、年々上昇しており、地道な取り組みが成果をあげている。きめ細かな授業をされていると思う。 児童が自主的に学習に取り組めるよう、いろいろ工夫して指導されており、その成果も見られる。(3.0)

(2) 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る。 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係や社会と関わりに努める。 いじめ防止基本方針に基づき、誰もがすごしやすい学校の環境作りに努める。 キャリア教育取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部会を母体→家庭状況・兄弟等、児童に関する細かな情報を共有し、学校として、関係機関と連携して指導に取り組む体制ができた。 年間計画の充実と、県の道徳教育副読本の計画的活用→教科道徳として学年段階に応じた指導に取り組む。 学校いじめ防止方針により、毎学期にアンケート調査で早期発見→組織として対応出来る体制ができる。全校なかよし集会等、縦割りで仲良く楽しくをめあてに、遊んだり新しい人間関係を築けた。 キャリア教育の全体計画の共通理解→具体的な授業・指導例を研究した。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 不登校ゼロを目指す取り組み→家庭と連携を密にし、いろんな形態の登校などを模索していく。 今後、キャリア教育として、清掃活動を、どう充実させていくか→働く喜びを味わわせる指導を工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校と家庭の連携強化を積み重ねる体制が、今後の成果につながっていくと思われる。 統合3年になり、児童は仲良く、友だちも増えているようだ。元気なあいさつや、人に迷惑をかけるマナーについて、家庭と連携して指導してほしい。(3.0)

(3) 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
<ul style="list-style-type: none"> 教職員の資質向上の取組を推進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る。 地域の教育力を活用した取組を推進し、地域とともにある学校づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで研修・研究会に積極的に参加する。→研修で得た内容を共有し、一人一授業の実施で、実践的指導力の向上を図る。 定時退勤日の完全実施→ベテラン教員等による率先垂範で、達成率が向上する。 地域の方々による図書ボランティアへの参加→本に興味をもつ児童が増える。 校舎お披露目会・授業参観・オープンスクール、児童会まつり等を実施→学校ホームページで情報を発信し、地域の方々が学校に足を運びやすい環境づくりを推進できた。 地域運動会に教員が関わり、交流することができた。 	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 地域学校協働活動推進員を中心に地域との連携を強化し、児童の成長の取り組みをどう充実させていくか→推進委員と教職員の意見交流の場をつくり、確実に事業を推進していく。 学校ホームページを活用し、地域に学校の情報を発信し、地域の方々が学校に足を運ぼうとする環境づくりのさらなる推進していく。 	食育が適切に行われていることにより、偏食や残食が少ないのと思う。(3.0)

(4) 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
<ul style="list-style-type: none"> 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る 	<p>登下校の安全指導の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 統合以来の大きな課題である、登下校時の安全指導の徹底を、地域・PTAと連携し実施→登下校の事故ゼロを達成。引き続き、安全指導の徹底を継続していく。 予告無し避難訓練等、年3回の実施→「自分の身は自分で守る」防災に対する意識を高め、対処法の習得を徹底する。 警察と連携し、不審者侵入を想定し、職員の不審者対応についての意識・技能を高め、対処法の習得を徹底する。 災害対応マニュアル、不審者対応マニュアルの作成→緊急時の対応について、職員の共通理解を図り、市の様式の改訂に取り組んだ。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 地域・PTAと連携した立ち当番の実施→今後も引き続いて児童の安全を守る指導の継続と「自分の身は自分で守る」指導の徹底する必要がある。 下校後の自転車による事故防止の取り組み→全校一斉に安全指導のDVDを見て命を守る指導を徹底していく。 低学年は、自転車に乗って校区外へ行かないことの指導と家庭に協力を徹底する。 青信号で横断を開始した児童に、車が突っ込んできてはねられそうになった事案があったため、さらなる安全教育を徹底しなければならない。 	新校舎に移転しても、地域との連携、安全教育の充実がうかがえる。「自分の身は」自分で守る」防災教育は大切な事だと思う。(3.0)

(5) 教育目標

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
<ul style="list-style-type: none"> 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 教育目標の具現化と指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 音読・漢字・言語等の確実な習得のための取り組みを、わかば西タイム・漢字・計算タイムで継続・集中して充実し、基礎基本の定着を図るとともに、読書力向上担当と連携し、朝読書等、読書活動を推進した。 体を動かす楽しさや喜びを経験させ、休憩時間の外遊びや体育、スポーツ活動の充実を図った。(長縄跳び、朝のジョギング等) 児童自ら、問題解決に取り組む深い学びにつながる授業を目指している。児童の実態に合わせて、授業の展開等も工夫している。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 学力テストなどの課題・成果を分析し、確かな学力を身につけさせる→児童のやる気を高揚し、毎日の授業と家庭学習をうまく結びつくように、児童の発達段階に応じて工夫して取り組む。 来年度、帯時間の取り組みで基礎的な学習の部分を積み上げていく。 	日々の小テストや、基礎学習のプログラム検討や努力がうかがえる。頑張っていて欲しい。良い結果が出ると信じている。よく取り組まれている。(3.5)

(6) 研究テーマ

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 研究テーマの具現化と指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科を研究の柱とし、研究推進委員会と全体研究会で重点取り組みを確認して取り組む→わかば西小の児童の深い学びに繋がる取り組みを、全職員で共通理解し、将来的に系統立った学習活動・指導を展開できる骨組みの構築を目指している。 研修会、実践的な演習等の実施した→本校の実態にあった講師を招聘し、授業に関わる実践的な授業を核とした研究に取り組んだ。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> わかば西小の児童の実態と、深い学びに繋がる学習活動を展開していく→児童自ら、積極的に取り組む授業を目指し、授業展開の工夫をする「主体的で対話的な授業」の充実に取り組む。 	児童の自主性・主体性を大切にしている指導が感じられる。(3.0)

※ その他の学校関係者評価 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)

アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	A
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B